

2009年10月19日

第36回 技術士全国大会（仙台）参加レポート

【大会概要】

本大会：2009年10月15日（木）～16日（金）「仙台国際センター」
 テクニカルツアー：2009年10月17日（土）岩手・宮城内陸地震（一関市祭時大橋ほか）
 本大会参加者総数：604名（内岩手県23名 非会員含む）

【1日目】

10：00～12：30 第5回全国防災連絡会議（仙台）2009
 「減災への技術士の使命」～地域との連携～

5名のパネリストからの提言のあと、具体的な議論にはいった。この中で、「地域防災力の向上」と題して、防災支援委員の浅岡不二雄氏から以下のような提言があった。

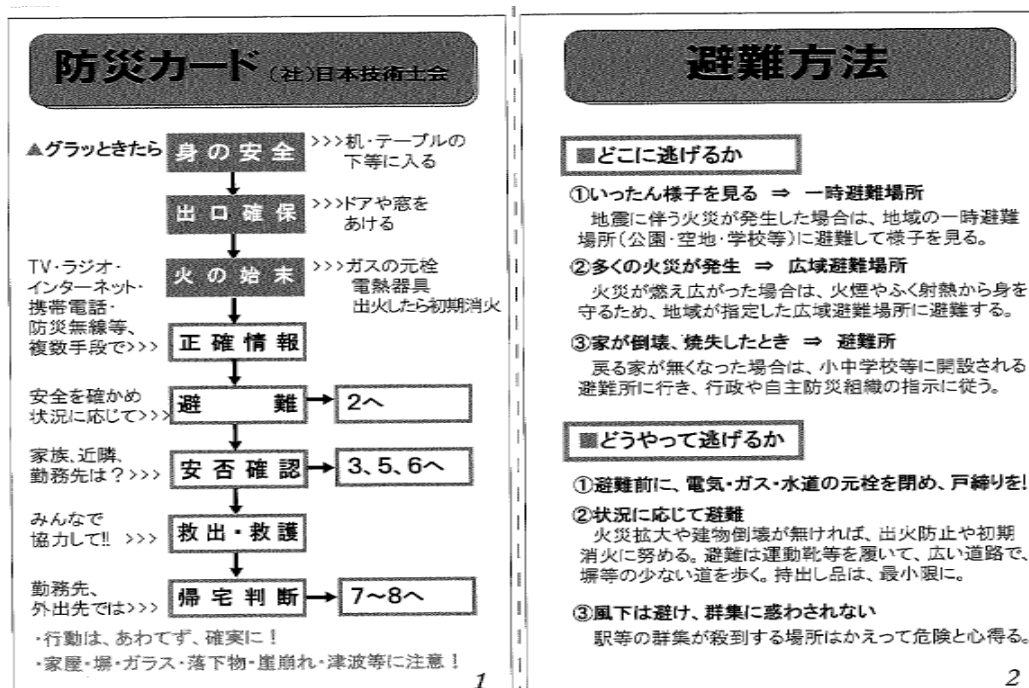
津波訓練実施率が34%、避難率10%というなかで、津波の来襲は事前に予測ができ、避難する時間もあるため防ぐことができる災害である。

防災に関して、地域住民の自主的行動に期待して、避難情報を提供しても、どこまで対応してくれるかは不明である。

地域住民の高齢化が進む中で、日ごろの準備が最も安価で最大の効果を得ることができる。この効果を得るためには、以下のようなことが必要である。

- ① 防災意識の共有
- ② 過去の教訓を活かす
- ③ 技術士など専門家の支援

日本技術士会防災支援委員会では、以下に示す「防災カード」を作成して一般市民に配布し、好評を得ているとのことであった。



安否確認方法

■かかりやすい電話

1. 公衆電話(停電時にテレカは使えない。10円硬貨を用意)
 2. P H S
 3. 一般の固定電話
 4. 携帯電話
 - ・災害時は電話がかかりにくいのはあたりまえ。
 - ・電話、安否確認システム、Eメール、ホームページ
- 掲示板等の複数手段であきらめずに連絡を！

■情報収集

1. 携帯電話：ワンセグ(TV)放送
 2. ラジオ：
 - AM(宮城県内全域)
 - *NHK第1(891KHz)/第2(1089KHz) *東北放送(1260KHz)
 - FM(宮城県内全域)
 - *NHK(82.5MHz) *FM仙台DateFM(77.1MHz)
 - FM(コミュニティーFM局)
 - 仙台シティーエフエム[仙台ラジオ3](76.2MHz): 青葉区
 - せんたい泉エフエム[F.M.いずみ](79.7MHz): 泉区、青葉区、宮城野区、
 - 宮谷町、大和町
- エフエムたいはく(78.9MHz): 太白区、青葉区、若林区、宮城野区、泉区
 名取市、岩沼市、多賀城市、塩釜市、利府町
 エフエムベイエリア[BAY WAVE](78.1MHz): 塩竈市、松島町
 石巻コミュニティー放送[ラジオ石巻](76.4MHz): 石巻市、東松島市
 エフエムいわぬま[ほほえみ](77.9MHz): 岩沼市、名取市、亶理町

3

身分証明

>>> 個人データ

§氏名[ふりがな]
 §血液型[RH] A・B・O・AB §性別 男、女
 §生年月日[西暦] 年 月 日
 §自宅[連絡先]
 §勤務[連絡先]
 §主治医病院名

>>> 緊急連絡先[保護者・親戚・知人等]

§氏名 TEL
 §氏名 TEL
 §氏名 TEL

>>> 避難先[場所・連絡方法等]

発行日：2009年10月15日

4

家族との連絡方法

■災害用伝言ダイヤル 171

- >>> 【1⇒録音 2⇒再生】
 災害地の方は自宅の電話番号をダイヤル
 災害地以外の方は災害地の方の電話番号をダイヤル
 (注)この時、必ず市外局番からダイヤルする
- >>> 【1#】
 >>> 【録音・再生(録音30秒以内)】
 (注)録音された伝言は最大48時間保存
- >>> 【9#】終了
- 事前に下記ホームページを見ておくこと
<http://www.ntt-east.co.jp/voiceml/>

■平常時にリハーサルを！

1. 携帯電話の伝言板体験：
毎月1日(元旦を除く)と9月防災週間に操作の体験可能
2. 安否情報の提供されるお勤め先ビル、学校名は
下記ホームページでの情報リストで事前確認を！

<http://www.1242.com/bousai/otsutome.html>
<http://www.1242.com/bousai/gakkou.html>

5

災害伝言板利用方法 【インターネット・携帯電話・PHS】

■1. サービスの開始

【インターネット】 大規模災害が発生した場合、被災地域(避難所等含む)の居住者がインターネットを経由して伝言板サイトにアクセスし、伝言情報を登録する。
 【携帯電話・PHS】 大規模災害が発生した場合、携帯電話・PHSのトップメニューに「災害用伝言板」が表示される。

■2. メッセージの登録方法

【インターネット】 (災害用ブロードバンド伝言板(web171)の利用方法)
<http://www.ntt-east.co.jp/saigai/web171/index.html>
 【携帯電話・PHS】 (ケータイ災害用伝言板の利用方法)
 ONTTIドコモ: <http://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/index.html>
 Oau: <http://www.au.kdd.com/notice/dengon/index.html>
 ツーカー: <http://www.kddi.com/tu-ka/tokai/service/dengon/index.html>
 ソフトバンクモバイル: <http://mb.softbank.jp/scripts/japanese/information/dengon/index.jsp>
 ウィルコム: <http://www.willcom-inc.com/ja/info/dengon/index.html>

■3. メッセージの確認方法

<会社別：携帯・PHS利用者の登録情報を確認する場合>
 ONTTIドコモグループ: <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>
 Oau・ツーカー: <http://dengon.ezweb.ne.jp/>
 ソフトバンクモバイル: <http://dengon.softbank.ne.jp/>
 ウィルコムPHS: <http://dengon.willcom-inc.com/>

6

帰宅支援方法《準備編》	帰宅支援方法《実践編》
<p>■ 帰宅準備</p> <p>①勤務先・通学先～自宅のルートを決めよう～</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>②1日20kmが徒歩の限界。近い目標を決める</p> <p>* 革靴10km、スニーカーでも20kmが限界。 親戚や公共施設、コンビニ、ガソリンスタンドなど中継点を定めよう。</p> <p>* 離れた鉄道の運行情報が確認できたら、その場所を目指すことも考える。</p> <p>* 日没までに歩ける地点を定めよう。</p> <p>■ 必需品 ③必要な物を揃えよう</p> <p>携帯ラジオや地図、菓子やペットボトル飲料、ティッシュペーパー等を持って、近くの目標を目指して、いざ出発。</p> <p style="text-align: right;">7</p>	<p>電気や水等のライフラインが使えない中で帰宅行動をとる時は、様々な危険が伴うものと覚悟せよ。火災やガラス、看板などの落下物にも注意しよう!</p> <p>■ 帰宅途中 ④安全に帰宅する</p> <p>* 歩いてみると道中はかなり長い。 次の「安全帰宅の10か条」をしっかりと頭に入れよう。</p> <p style="text-align: center;">【安全帰宅の10か条】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● あわてず騒がず状況判断（火災や風向きも） ● 風評に惑わされず正確情報（携帯ラジオで） ● 余裕の行程計画（夜間は危険と心得よ） ● 広い道路の中側を歩く（塀や細い道は避ける） ● 短距離の目標の積み重ね ● 季節に応じた冷暖準備（携帯カイロやタオルなど） ● スニーカーや履き慣れた柔らかい靴で ● 机の中のお菓子は簡易食料になる ● 家族と安否を確認（災害伝言やホイスメールで） ● 声を掛け合い、助け合おう <p>■ 車中では 一公共交通や自家用車の中一</p> <p>* 公共交通機関で被災したときは、係員の指示に従い、身勝手な行動は起こさないこと。</p> <p>* 自家用車は、安全に停車してエンジンを止めてキーは付けたまま避難しよう。</p> <p style="text-align: right;">8</p>

15：30～17：30 基調講演「将来社会の見通しと科学技術の役割」

講師：西澤潤一氏

私は、西澤潤一氏の講演をお聞きしたのは、始めてである。雄弁で濃密な講演内容であり、感銘を受けた。

人類とエネルギーの関わりから、CO₂濃度の増加予測、今後の技術開発とエネルギー政策のあり方など、技術論を分かりやすく伝えていただいた。



【2日目】

9：15～11：45 第3分科会「地震災害に備え、地域社会の安全向上に貢献する」

一地域防災力の強化に関するポイント一

大規模地震等の自然災害リスクが高まる中、公助が発動されるまでの間、自助・共助などを中心にした、地域防災力の強化が必要である。

地域防災力の強化のポイントとして以下のような事項が挙げられる。

- ① 住民は情報過多になっている場合がある。
- ② 技術士が防災活動等を通して災害や防災・減災に関する情報を整理し、地域住民が納得できる形にして伝える。
- ③ 地域の診断力を身に付ける。
- ④ 人材を含め地域資源を発掘する。地域にキーマンをつくる。

－技術士と他の士業との連携－

大規模災害時における緊急・応急事業や復興支援を迅速かつ円滑に進めるためには、行政側に加えて専門知識を有する個人・団体の支援が欠かせない。

東京では、技術士会・弁護士会・司法書士会・建築家協会など 19 団体が参加して、「災害復興まちづくり支援機構」を立ち上げている。

このなかで、住民と機構が一緒になって、震災シミュレーションで被災をイメージしながら、地域の復興計画の策定などの活動を行っている。

こうした活動は、岩手県技術士会にも当てはまるのではないかと、感じるところである。

13：00～14：45 総合シンポジウム「社会の安全・安心と技術士の役割」

総合シンポジウムでは、全 5 分科会で議論された内容の取りまとめが報告された。この内容については、後日、会員の皆様に改めて報告したいと考えている。

また、分科会で取りまとめた成果については、岩手県技術士会の活動にも大いに関係することであり、活用を図っていききたいと考えている。

【3 日目】

9：00～9：45 テクニカルツアー 岩手・宮城内陸地震被災地視察（祭時大橋ほか）

昨年 10 月の岩手県技術士会主催の被災地現場研修に続き、2 回目の研修となった。

主たる研修先である国道 342 号祭時大橋は、仮橋が完成し、真湯温泉までの道路機能は回復している。なお、須川までの間は、2010 年 6 月に開通の予定となっている。

祭時大橋の本橋の復旧は、現在、兩岸の橋台の工事が進んでいる状況である。橋梁形式は、橋長 115m、2 径間連続 PC 箱げた T ラーメンで計画されている。完成は、2011 年度とのことである。

また、今回の研修では、祭時大橋右岸の地すべりが発生した地点にも立ち入ることができた。幅 1m、深さ 10m を超す地割れが発生し、被害程度の大きさを見ることができた。



写真 1 落橋した祭時大橋



写真 2 地すべりによって損壊した右岸側道路

以上

報告：岩手県技術士会
会長 村上 功